

# 1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	芸術科	科目	日本画		単位	1	単
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1 年	8・9 組		
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)						
使用副教材							

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

**学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか**

日本画の授業では、膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など伝統的な専門技法を学習しまた日本画特有の空間表現を学ぶ。

1年次は日本画の基礎として、デッサン力を養い、観察と細密描写を中心とした課題で実習する。静物描写の課題のなかで絵具、素材に対する表現技術を習得する。主に顔彩を使用し、来年度以降に向けて岩絵具の実習も盛り込みながら、日本画の基礎実習を目標とする。

**学習内容：この科目で学習する大まかな内容**

日本画は専門講師が指導し、画材等のセッティングが大掛かりなため、約1ヶ月の集中授業の形式で学習する。1年次では日本画実習の基本となる、水彩による写生を中心に実習し、併せて日本画材の基礎も学ぶ。

画材は「顔彩」を主に使用し、岩絵具は背景のみ使用する。顔彩はこれまで使用してきた水彩絵具と扱い方が同じである。モチーフはスルメと野菜、果物などの自然物の組み合わせを予定。スルメは複雑な色作りと、徹底した細部の描写を学ぶのに適したモチーフである。

彩色に入る前に墨描きを実習し、筆による線の抑揚で形の変化を表現する。

**学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか**

(1) 学校

主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使うって集中した制作を行う。放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。

(2) 家庭

無し

# 3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

**評価方法：何を使って評価するのか**

主に完成した作品によって評価する。

技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

0 %

# 4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

**評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか**

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度

(2) 思考・判断

画面全体を構成する総合的判断力

(3) 技能・表現

デッサン力、色彩感覚、表現力

(4) 知識・理解







【SDGsの各ターゲットについて】  
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】  
高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は  
アイコンをクリック

道徳

※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に  
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に  
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

1